

子どもの声が聞こえる元気で優しいまち再生を目指して！
再チャレンジ可能なまち『西成 R プロジェクト』

まちの「居場所づくり」の実践を通し、「安心」と「にぎわい」が
両立する“再チャレンジ”可能なまちづくりを推進する

■西成特区構想の取組みから 5 年。地域と行政によるボトムアップ型の協働まちづくりによって、あいりん総合センターの建替え検討をはじめ環境・結核・防犯対策などについては一定の成果をあげ、各専門部会においても具体的な成果と課題が整理されてきている。現在、新たな労働市場の発掘と社会情勢に応じた柔軟性の確保、公園のあり方などが検討されているが、具体的なまちの居場所の再構築や子育て世帯対策、それらを受け止めるハウジングと防災まちづくりは未だ手つかずの地域最優先課題である。

■とくに西成の高齢単身世帯率¹と生活保護率²は全国で最も高い。また国が求める防災性向上優先地域を有し、空き家率³も府下最大である。一方、新今宮駅周辺の開発をはじめインパウンドの波が地域をめぐるなかで、違法民泊をはじめとする民間開発からくる課題も顕在化している。今後、都会の限界集落の状態と地域文脈なき開発から脱却するまちづくりの具体化が急務である。

■このような状況において現在地域の人々が求める主なテーマには「子育て世帯の呼び込み×弱い立場の人を排除しない×地域活力向上×仕事と役割づくり×安全で住みよい住環境向上」などがある。一見矛盾する変数をもつ連立方程式を解くために、労働の街として培われた他にはない豊かな社会資源や地域ストックを活用した「社会的包摂力」と「地の利」をダブルエンジンに、チャレンジしやすく再チャレンジを受け止めるまちづくりを提言する。再=Re をテーマとする『西成 R プロジェクト』は、本提言を体現化するメッセージである。

■具体的には、この 2 つのエンジンによって、仕事・住まい・福祉をつなぐ「サービスハブ⁴」(コミュニティ事業)を構築すると共に、エリアリノベーション⁵による多様で多層な「居場所づくり」を通して各主体の連携体制を整え、実感できるモデル事業を積み上げてビジョンを組み立てるアジャイル型⁶まちづくりの実践である。

■次期特区構想では、5 年にわたる地域連携の経験を活かしながら、これまで「点」として実施してきた事業や施設(ハード)の取組みを活かしつつ「面」へと広がる持続可能なヒト・モノ・コトづくりをマネジメントするまちづくりに注力する必要がある。そして、まちのイメージを再価値化し、子どもや若者世代をはじめとするコミュニティ再生を意識し、このまちが故郷となるような次世代を意識した「まちの担い手育成」を推進すべきである。

■これらを実現するためには、地域は各主体の「違い」を超えた協働の経験を活かし、行政は実行可能な各局連携体制の整備が求められる。極めて困難な課題が集積するこの地域のまちづくりは、もつれた糸を解いて紡ぎなおし、その糸の反物で作った着物を装うかのようでもある。このまちで繰り広げられる多様な主体が協働する「あきらめない」まちづくりは、全国的に先鋭的課題を抱えた地域における先進的な実践として他地域でも活かされる実践モデルになると確信する。

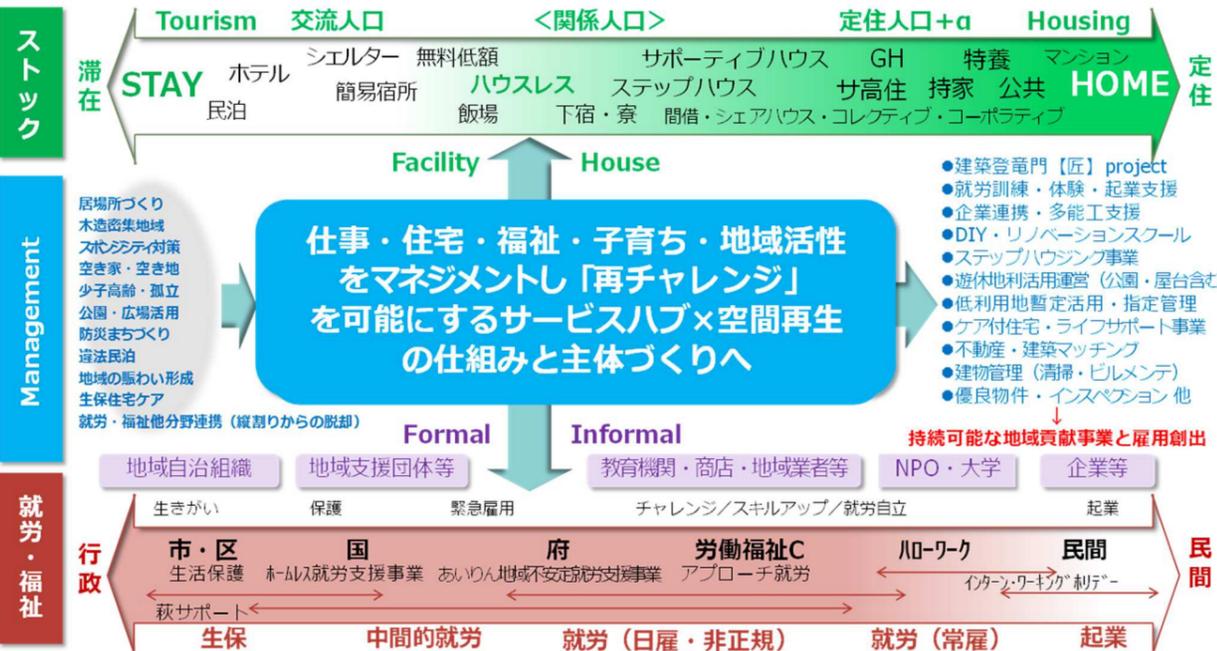
■大阪市の成長戦略を具現化するためには、この地で実践されているまちづくりを表出する必要があり、地域によるボトムアップ支援にとどまらず、市長による強いリーダーシップと社会的メッセージが重要となる。逆に、この特区構想における取組みは、今世界で実行されようとする国連「アジェンダ 2030」における「持続可能な開発目標(SDGs)」⁷にも合致していることから、「地域共生社会」の実践を世界にアピールできる貴重な取り組みになるであろう。

* 1 : 32.4%(H.30 国調) * 2 : 234.7%(H.24 大阪市) * 3 : 23.8%(H.25 住宅・土地統計調査)
* 4・5・6・7 : 本編参照

6つの提言

- さ 「サービスハブ」で仕事・住まい・福祉を結びつけて多分野が横断した再チャレンジ可能なまちづくりを推進する
- い 居場所づくりを通じてまちをシェアする「コレクティブタウン」を目指す(レジリエントなまちづくり)
- ち 地域に子どもの声が広がる子育て・子育てしやすいミックスコミュニティを推進する
- や 優しい！おもしろい！大阪らしいまちでイメージアップを図る(まちの歴史文化・教育が連動するアーカイブ)
- れん 連動する地域ボトムアップと具現化のための行政局間連携(横串化)による協働システムを構築する
- じ ジェントリフィケーションによる弊害が起きないように、外部力をしなやかに活かしたまちづくりへ

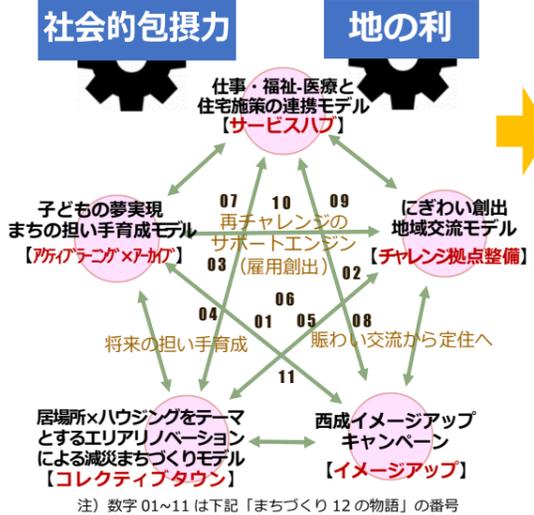
滞在(滞留)と定住、宿泊と住まい、就労と福祉、行政と民間の制度や役割の「間」にあるグラデーション(バラバラであった人的資源・空間資源)を再構築する全国初の試み。



みんなでつくる 12 の物語

- 01 大阪らしさ一番！を活かして
- 02 実は「安全・安心」が広がりつつあるまちなのです。
- 03 日頃から減災中！いざという時にこそ強いまちを目指して
- 04 子どもや子育て世帯が暮らしやすい居場所づくり・夢づくり
- 05 脱コンクリートジャングル[都会の森]×[居場所]計画始動！
- 06 であいとすまいの間にある居場所のグラデーションをデザインする
- 07 仕事を求める多様な人の“再”チャレンジを可能にするまちづくり
- 08 おりたくなるまち大阪玄関口
- 09 「いまはないもの」が生まれるまち
- 10 気づくと日本一Rな街でした！萩之茶屋Rなまち宣言
- 11 まちは舞台だ！物語とおもしろい 地域文化が街角にあふれるまち
- 12 みんなで考える もうひとつの物語

5つのアクション



5つの ACTION (事業提案)

0 2018 : プレイベント・プレプロジェクトの実施

子どもと一緒に「まちのトイレ向上作戦」(下記 5)
公園使い分け実験ワークショップ(下記 3)
萩の森 : 森とつながる木材リユースワークショップ(下記 3) など

1 仕事・福祉・医療と住宅施策の連携モデル【サービスハブ】

暮らしをめぐる他分野の既存制度や組織・主体を横串にする体制を構築し、暮らしをワンストップでつなげる伴走型支援の実践

- ・サービスハブモデル検討委員会設置と行政との連携の仕組みづくり(関係者ニーズ・運営等に関する調査)
- ・新たな就労機会を生む就労連携モデル事業(国・府・市と連携) * 既存の日雇労働紹介のあり方については国・府にて検討中
- ・まちとつながる孤立防止と地域医療連携モデル事業

2 居場所×ハウジングをテーマとするエリアリノベーションによる減災まちづくりモデル【コレクティブタウン】

まちなかの地域資源をシェアする「コレクティブタウン」による減災まちづくりを推進し、多様な世帯が安心して暮らせるまちへ

持続可能な事業運営手法の確立(居住支援ネットワーク及び支援法人等の設立) / 空き家・廃材 BANK (もったいないプロジェクト) / 警察署と連携した違法民泊対策・空き家インスペクション / 西成版リノベーションスクール / 空き地・空き家等再生モデル事業(建築補助) / 居場所モデル事業 : 多様で多層な人々の居場所モデルの実施
→ 新萩の森・広場・公園・商店街・施設等の整備等

3 子どもの夢実現・まちの担い手育成モデル【アクティブラーニング×アーカイブ】

情報アーカイブを活用したアクティブラーニングによって子どもの「夢」を実現させ、まちの次世代の担い手を育成

- ・情報アーカイブとの連携事業(案内・外国語・情報誌作成等)
- ・子どもの夢実現プロジェクト(子どもの居場所・遊び場づくりモデル事業) 森とつながる木材リユースワークショップ・小中一貫校における地域学習と連携

4 にぎわい創出・地域交流モデル【チャレンジ拠点整備】

「地の利」を活かした多様な人との出会い・交流の場づくりを通じてにぎわいを生み、愛着と定着を生む機会を創出

- ・地域賑わい「屋台村」事業 + 商店街拠点再生事業
- ・イベント交流事業体制の構築 + 広域ネットワーク整理
- ・仮移転する労働関係施設の本設移転後の利活用検討事業および周辺を活用した賑わいづくり情報アーカイブとの連携事業(案内・外国語・情報誌作成など)

5 西成イメージアッププロジェクト【イメージアップ】

地域イメージに対する意識的・景観的・社会的に再価値化する情報発信

- ・地域資源発掘プロジェクトを通じた西成若者会議
- ・西成応援団結成(関係人口のネットワーク)
- ・環境整備事業 : 環境美化 + トイレ・壁アートプロジェクト
- ・情報技術(Iot・ICT・VR 等)を活用したプロモーションキャンペーンモデル事業
- ・国連「持続可能な開発目標」(SDGs)の達成に貢献する地域共生社会の実践モデル地区
- ・まちなかアート・緑化プロジェクト・まちのトイレ向上作戦